

体験交流館ニュース

学びいな祭りが開催されました

第1回学びいな祭りは11月7、8の両日、町教育委員会と猪苗代町体験交流協会の主催により、町体験交流館学びいなどで開催されました。

両日とも天候に恵まれ、来場者は2日間で2,000人を数えました。



民具を使って遊ぶ子ども

初日の7日には磐梯町出身の落語家三遊亭円福師匠による「猪苗代寄席」が、8日には渡辺勇氏による「元気が出る講演会」が開かれ、会場中の観客の笑いを誘いました。初めての試みも多く、いろいろと改善すべき点はありましたが、多くの人に見学いただき、何かを感じたり、交流したりする場を作れたと思います。

来年も多くの人に来てもらえるよう、趣向を凝らしていきたいと思います。



川桁謡真鼓楽会の演奏

子どもからお年寄りまで、多くの来場者が学びいなどで活動する皆さんの舞台発表、作品展や各種体験コーナーを楽しみました。

初日の7日には磐梯町出身の落語家三遊亭円福師匠による「猪苗



人気のバルーンアート



母から子への手紙コンテスト

「母から子への手紙コンテスト」の一次選考会は10月18日、町役場正庁で開催され、海外からの応募4編を含む1,105編の応募作品から、55編に絞られました。

11月9日の最終選考会では、小説家で僧侶の玄侑宗久さん、エッセイストの大石邦子さん、春日居郷土館・小川正子記念館名誉館長の末利光さんや一次選考委員代表の小林光子さんによる審査で、大賞・準大賞各1点、優秀賞8点が選ばれました。大賞に輝いた作品を紹介します。



『君がくれた光』 野沢顕子（東京都）

ママが「耳下腺癌」という聞きなれない病気で手術を受けたのは、君がまだ5歳の頃だったね。

癌と一緒に、耳と、顔の神経を切ったその日から、ママの耳は一つになり、顔の半分は動かなくなった。

手術後1カ月が過ぎても、ママは退院するのが怖かった。杖を突かなきゃ歩けない、こんな体で君を守る？ 私が母親でごめんね……。

でも、君は「ママ！」と、抱きついてくれたね。

「ママ、早く帰ろう！」

君は、ひとかけらの疑問もなく私を信頼してくれる君のままだった。君にとって私は、ちゃんと「ママ」だった。

それに気づいた時、ママの心に光が射したんだ。見た目やできることが変わっても、君の母親でいたい！

私は、君の信頼に応えたいと思った。

君がくれた光に導かれて、ママは今日も生きる。できないこともあるけど胸を張って。

そしてこの暖かい光で今度は君を包みたくて毎日君を抱きしめる。ありがとう。ママは君といられて、今日も心から幸せです！

猪苗代町体験交流協会からのお知らせ

「第23回越後と会津を語る会」盛大に開催

「第23回越後と会津を語る会」は10月24日、町体験交流館で開催され、参加者らが会津と越後の歴史を学び、交流を深めました。関心を集めたこの大会には約530人が参加し、第2会場を設置するほどの盛況ぶりを見せました。



夜は郷土の料理を食べながら、お酒を酌み交わして親睦を深め、町内の民宿に宿泊しました。

翌日は、越後から移住した集落である打越、富永、猪苗代兼載の古里・小平潟天満宮、保科正之の墳墓・土津神社や猪苗代城などを巡り、昼食には新そばを食べるなどしながら、秋の猪苗代の魅力を十分に堪能しました。



「クリスマスコンサート in inawashiro」

クリスマスの歌・日本の歌を宇月東さん、津金久さんが歌います。

日時：12月20日(日)

午後1時開演

会場：町体験交流館

料金：前売り 2,000円

当日 2,500円

主催：窓ぎわ文庫



福田正二郎ギターコンサート

会津藩祖・保科正之、連歌師・猪苗代兼載、世界的医学者・野口英世ら猪苗代にゆかりの深い3偉人。

3人の母から子への願いや古里への思いを福田さんのギターにのせて朗読するコンサートは11月23日、町体験交流館で開催され、約250人が聞き入りました。



国指定重要文化財 法正尻遺跡

法正尻遺跡は、磐梯町の法正尻地区と猪苗代町の遠出地区に広がる、県を代表する縄文時代の集落遺跡です。磐越自動車道建設に伴い、県教育委員会が実施した発掘調査(昭和63年から平成元年まで実施)で、竪穴式住居が129軒、遺物が26万点も出土しました。

出土品の中から、主に縄文時代中期を主体とした土器・土製品・石器など855点が、今年の7月10日付けで国の重要文化財に指定されました。

これらは、白河市にある福島県文化財センター白河館(まほろん)で、22年1月31日まで展示されています。わたしたちの身近な場所から出土した縄文時代の土器を、ぜひご覧ください。

■まほろん ☎0248(21)0700 ホームページ <http://www.mahoron.fks.ed.jp>



アジア各国の料理に挑戦しよう【料理教室】

身近な材料でできる、アジア各国の家庭料理の料理教室を開催します。希望する人は12月25日(金)まで、体験交流館へ申し込んでください。当日は子どもの預かりもしますので、子連れでも参加できます。

日程および内容が多少変更することもありますので、ご了承ください。

■期日：1月12日(火)～中華料理編～

1月26日(火)～韓国料理編～

2月9日(火)～日本料理編～

2月23日(火)～インド料理編～

■申し込み・問い合わせ先 教育委員会生涯学習課 ☎(72)0180

■時間：9:30～12:00

■会場：町体験交流館

■参加費：各回700円程度



猪苗代歴史探訪

幹の梅

会津藩松平家の初代藩主保科正之は、お国入りに際したたびたび猪苗代を訪れていた。寛文十年(一六七〇年)八月には小平潟天満宮に参拝、幹に花が咲く神木「幹の梅」に感心し、「千早振雪にも匂ふみきの梅の葉をしらさりし天津神垣」と詠んだ。

四代将軍家綱の後見人として幕政に参画した正之は、文治政治の確立などに貢献した。また、明暦の大火では米倉を解放し、御金蔵の十六万両を万民に与えたり、江戸城天守閣の再建を財政の浪費として廃案させたりするなど、常に民の安寧を図り、仁政を施した名君であった。

神道や儒教にも造詣が深かった正之は、学問が大成する事を願い、古くから天神を祀り信仰されてきたこの社を訪れ、歌を詠んだのであろう。この和歌はお供をした吉川惟足が詞書し、後二代正経の筆となり、土津神社の宝蔵に保管され、祭礼に際して披露された。

(兼田) 幹の梅(写真)は、現在、小平潟集落南の旧社地に残る。

